

家畜衛生情報

香 川 県 畜 産 課
 TEL(087)832-3426~8 FAX(087)806-0204
 香 川 県 東 部 家 畜 保 健 衛 生 所
 TEL(087)898-1121 FAX(087)898-9558
 香 川 県 西 部 家 畜 保 健 衛 生 所
 TEL(0877)62-0020 FAX(0877)62-3299

平成 30 年度 畜産施策の概要

平成 30 年 1 月に県内で発生した高病原性鳥インフルエンザでは、24 時間以内の殺処分や、72 時間以内の殺処分鶏の死体の処理などにより、2 月 5 日午前 0 時に全ての防疫対応が終了しました。今回、感染拡大することなく迅速に終息できたことは、関係各位のご尽力によるものであり、心より感謝を申し上げます。畜産農家におかれましては、今後とも、飼養衛生管理基準の遵守や迅速な報告に努めていただきますようお願いいたします。

一方、EPA(経済連携協定)やTPP(環太平洋パートナーシップ協定)による国際化の進展により、将来、海外からの安い畜産物の輸入増が予測されるなど、大きな不安材料になっています。また、肥育素牛及び乳用後継牛の価格高騰等に伴う収益性の悪化により、経営戸数や飼養頭数の減少が懸念されています。このような状況に対応するため、県では下記の施策を推進しています。

- ①「オリーブ牛」や「オリーブ豚・オリーブ豚」に続いて、平成 30 年 3 月末に「オリーブ地鶏」の生産販売を開始するなど、高品質で特長のある畜産物のブランド力強化を進め、多様な流通業者や消費者のニーズに対応した取り組みを展開しています。
- ②「オリーブ牛」については、今年度、優良繁殖雌牛の導入支援や受精卵移植事業を拡充し、香川県産の「オリーブ牛」の増頭を図ります。また、昨年開催された「全国和牛能力共進会」において、「オリーブ牛」が「脂肪の質賞」を受賞し、高い評価を受けたことから、各種イベントで「脂肪の質・日本一！」をPRするなど、一層の国内販路拡大に努めるとともに、受賞牛やその系統の牛から、脂肪の質の良好な遺伝子を持つ牛を調査・選別し、高品質な「オリーブ牛」の増頭を図ります。さらに、海外での富裕層の多い地域等をターゲットに、効果的な情報発信を行い、輸出促進に取り組みます。
- ③酪農においては、後継牛の安定的確保のため、自家育成用簡易施設の導入支援を行うとともに、昨年度に引き続き、安全でおいしい牛乳の生産を推進するため、県、農協、乳業メーカーが一体となった総合的な検査、指導に取り組みます。

今年度も、国の施策の積極的な活用に努め、畜産物の価格安定制度等を支援するとともに、県予算の重点的な配分による危機管理体制の充実と、生産基盤強化や販売促進などの総合的な施策を実施し、本県畜産の振興を図ってまいります。

家畜伝染病・伝染性疾病発生状況 (近県)

疾 病 名	畜種	発 生 場 所	発生時期	発生戸数	発生頭羽数
ヨーネ病 (法定)	牛	島根県、徳島県、高知県	H29.12~H30.1月	3	3
牛白血病 (届出)	牛	兵庫県、岡山県、広島県、鳥取県、島根県、山口県、愛媛県、徳島県、高知県、香川県	H29.12~H30.3月	100	126
牛ウイルス性下痢粘膜症(届出)	牛	兵庫県、徳島県	H29.12~H30.2月	5	6
破傷風 (届出)	牛	島根県、山口県、愛媛県	H29.12~H30.2月	4	4
牛サルモネラ症 (届出)	牛	広島県、鳥取県、徳島県	H29.12~H30.1月	4	4
気腫疽 (届出)	牛	徳島県	H30.1月	1	1
レプトスピラ (届出)	牛	山口県	H29.12月	1	1
豚丹毒 (届出)	豚	兵庫県、岡山県、広島県、鳥取県、島根県、愛媛県、徳島県、高知県、香川県	H29.12~H30.3月	38	54
豚繁殖・呼吸障害症候群(届出)	豚	広島県	H30.2月	1	1
鶏サルモネラ症 (届出)	鶏	島根県	H30.1月	1	2
伝染性喉頭気管炎 (届出)	鶏	岡山県	H30.2月	1	5
マレック病 (届出)	鶏	島根県、高知県	H30.2月	2	5

酪農場に発生した牛サルモネラ症の清浄化事例 ～第59回中国・四国ブロック家畜保健衛生業績発表会より～

愛媛県の酪農場で発生したサルモネラ症の清浄化対策事例報告がありましたので、お知らせします。

平成29年2月、酪農場で20日齢の乳用子牛が下痢を呈し死亡し、病性鑑定を実施したところ、病理検査では、肝臓に多発性巣状壊死を認め、細菌検査では、肺、肝臓、小腸からサルモネラトンプソン(Salmonella Thompson (以下STh))が分離されたので、牛サルモネラ症と診断しました。

同居牛の保菌検査では、同居子牛22頭中9頭からSThが分離され、農場内に浸潤していることが判明したので、対策として、感受性のある薬剤及び生菌剤の投与と、牛舎内の消石灰塗布による消毒、定期保菌検査を実施しました。

徹底した保菌牛早期摘発、治療等を実施し、6月には牛個体からは菌分離されなくなりましたが、環境からは菌分離されたことから、子牛全頭への生菌剤投与、消毒等の対策を強化しました。9月には個体・環境ともに菌分離されなくなり、その後2ヶ月間、菌分離されなかったことから清浄化されたと判断しました。清浄化まで9カ月間を要しました。

サルモネラが農場に侵入してしまうと、根絶には労力もかかり、経済的損失も大きくなります。まずは、外から菌を持ち込まないような衛生対策(長靴消毒、車両消毒、健康な家畜の導入等)など飼養衛生管理基準の遵守を心掛けましょう。

県内で病原性が強いタイプの 豚繁殖・呼吸障害症候群ウイルスを初確認!!

豚繁殖・呼吸障害症候群(PRRS)は、主に妊娠後期に発生する流死産などや子豚の発咳を伴わない呼吸障害(腹式呼吸、呼吸促進)などを主徴とする豚の伝染性疾病で、死亡率の上昇や発育不良を招くとともに、他の様々な病原体と混合感染し症状を悪化させることが知られています。

その原因であるPRRSウイルスは、遺伝学的に異なる北米型と欧州型の2つに分類され、それぞれに多くの系統が存在すると報告されています。現在、国内で検出されるものは北米型のみで、それらはクラスター(群れ、集団という意味)I～Vの5つに分類され、その病原性は次の表に示すとおりです。

病原性	① 最も強い	② 強い	③ 比較的強い	④ 通常
クラスターの種類	クラスターIのうち、中国、東南アジアで発生している非常に高致死率(20-100%)の高病原性PRRS	クラスターIVのうち、九州などで発生している高致死率のもの	クラスターIVのうち、②以外のもの	①、②、③以外のクラスターI、II、III、Vのもの

県内では、今年の2月に2農場(1農場はPRRS陽性農場)で異なる妊娠ステージでの流死産が多く発生したり、多くの子豚とともに繁殖豚まで呼吸障害で死亡したとの届出がありました。病性鑑定の結果、両農場からPRRSウイルスが検出され、国の検査機関での詳細な検査の結果、両農場のウイルスは極めて近縁であって、上表②の「クラスターIVの中でも病原性の強いウイルス」のグループに属することが判明しましたが、農場間の疫学的なつながりは特定されませんでした。

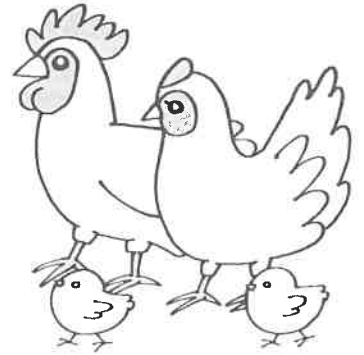
このような病原性の強いウイルスが農場に侵入した場合は多大な損害を受けることから、侵入防止対策が極めて重要となります。今回、農場への侵入経路は不明でしたが、感染豚の導入、ウイルスが付着した人、車両、物品の持ち込み等が原因であると考えられます。このため、飼養衛生管理基準の遵守を徹底し、万が一異常が見られた場合は直ちに家畜保健衛生所へ届出てください。

珪藻土による採卵鶏農場におけるワクモ対策について ～第59回中国・四国ブロック家畜保健衛生業績発表会より～

鳥取県内でワクモ対策に苦慮していた採卵鶏農場において、天然環境資材の珪藻土を用いて対策を実施したところ一定の効果が認められたとの報告がありましたので紹介させていただきます。

採卵鶏農場（10,000羽規模）で、300～400日齢の鶏に頭部を中心とした発疹を主とした皮膚病変が散見されました。家畜保健衛生所にて病性鑑定を行ったところ、皮膚型鶏痘と診断されました。また、鶏舎内には大量発生していたワクモから鶏痘ウイルス遺伝子が検出されました。このことから、感染の原因はワクモによる機械的伝播と推察されました。農場主はワクモ対策として市販の薬剤を使用していましたが、鶏痘が発症する数か月前より駆除効果が低下していたため、対応に苦慮していました。そこで、農場主と家畜保健衛生所で協議し、天然素材で物理的作用によりワクモ対策効果のある珪藻土の散布を実施しました。方法は水に3～4%の濃度になるよう珪藻土を混和し、定期的に（2～3週間に1回）散布を行いました。その結果、散布開始前に比べワクモ数は約1/3に減少し、1か月のワクモ対策に要する費用は市販の薬剤使用（約8.7円/羽）に比べて低コスト（約2.4円/羽）に抑えられました。しかしながら、ワクモが活発になる夏季は一時的に増加がみられる等の課題も見つかりました。今後は、季節により市販の薬剤と併用する等の適切かつ効果的な使用方法の検討を重ねるとのことです。

ご存じの通り、ワクモは鶏痘等の病気の媒介をするだけでなく、ワクモ自身が鶏を吸血して貧血や免疫低下を引き起こし、多大な経済的損失を招きます。日頃より、ワクモ対策を実施されているかとは思いますが、より一層の徹底をお願いします。珪藻土の更なる効果的な使用方法についての新たな知見等効果的なワクモ対策情報が得られましたら、再度家畜衛生情報等を通じて周知させていただきます。



オリーブ地鶏誕生!!

平成30年3月27日、県の新ブランドとして、「オリーブ地鶏」がついに発表されました。

オリーブ飼料を給与したブランド畜産物は、オリーブ牛、オリーブ豚、オリーブ鶏がすでに販売され、県内外で高く評価されていたことから、「オリーブを活用した鶏肉を開発してほしい」との声が、業界や消費者の中で高まっていました。

このため、平成26年から、香川県畜産試験場と生産者、流通業者が連携して「オリーブ地鶏」の開発に取り組み、餌となるオリーブ飼料の配合割合や、給与期間など、いくつもの検討を重ね、4年の歳月をかけて開発に成功しました。

「オリーブ地鶏」は、県産地鶏の「讃岐コーチン」と「瀬戸赤どり」に出荷前2週間以上、オリーブ飼料（オリーブの搾り果実）を飼料に0.5%以上混合し給与することで、通常の鶏肉に比べ、甘み成分の「グリシン」や、うまみ成分の「コハク酸」が多く含まれ、豊かな味わいが感じられます。

現在、県内のスーパーなどで販売されていますので、「オリーブ地鶏」が持つ新しい味を是非ご賞味ください。



平成30年度 香川県畜産課関係組織体制

畜産課		東部家畜保健衛生所		西部家畜保健衛生所		畜産試験場	
課長	澤野 一浩	所長	光野 貴文	所長	合田 憲功	場長	野崎 宏
副課長	山本 知子	次長(兼)家畜防疫主幹	泉川 康弘	家畜防疫主幹(兼)	上原 力	次長	大谷 徳寿
家畜防疫主幹	笹田布佐子	【庶務課】		【庶務課】		【総務課】	
【総務・経営グループ】		課長	青木 一洋	課長	氏家 敬	課長	岡 直樹
副主幹	平池 直子	主任	藤岡 貴	主任	神原 照生	主任	川口 潤
主任	中村 正也	囑託	佐藤 直子	主任主事	山下 義夫	主任	古川 一男
主任	谷本 国博	臨時職員	宮末あかり	【衛生指導課】		主任	笠井 弘子
主任	澁市さつき	【衛生指導課】		課長	川田 建二	【酪農・肉牛担当】	
【生産流通グループ】		課長(兼)	泉川 康弘	副主幹	梶野 昌伯	主席研究員	高橋 和裕
課長補佐(総括)	田淵 賢治	副主幹	上村 圭一	主任技師	川江早矢香	主席研究員	三好 里美
主任	上村 知子	【防疫課】		【防疫課】		主任	池田 誠
主任	矢野 敦史	課長	笹田 裕司	課長	松元 良祐	技師	増川 慶大
主任	北本 英司	主任	久保 貴士	副主幹(兼)	梶野 昌伯	技師	傍示 和
主任	眞壁 七恵	主任	香川 正樹	主任	宮本 純子	【飼料環境担当】	
技師	井手上奈央	獣医師	安部 正雄	技師	原 基	主席研究員	齋藤 武司
【衛生環境グループ】		【病性鑑定室】		【西讃支所】		主任研究員	今雪 幹也
課長補佐	田中 宏一	室長	高橋 茂隆	支所長	上原 力	【養豚担当】	
副主幹	向阪 優雅	主任研究員	森西 恵子	副主幹	渡邊 朋子	主任研究員	山下 洋治
主任	瀬尾 泰隆	主任研究員	片山 進亮	副主幹	萱原 由美	技師	豊嶋 愛
主任	坂下奈津美	主任研究員	土佐 進	副主幹	山本 英次	【養鶏担当】	
主任技師	山岡 彩花	技師	中津弥乃梨	主任主事	東條 君子	主席研究員	森田 えり
		技師	上原 睦	囑託(獣医師)	秋山 正尊	主任研究員	三谷 英嗣
		【小豆総合事務所 家畜保健衛生室】 (小豆支所)					
		室長	大西 美弥				
		囑託	明田由加里				
		囑託	中岡 和美				



<お知らせ>

- 毎年6月15日は、鶏などの定期報告書の提出期限です。
鶏、あひる、うずら、きじ、だちょう、ほろほろ鳥及び七面鳥の所有者は、平成30年2月1日現在の飼養羽数等について、報告書の提出をお願いします。
- 畜産環境苦情の多発警報
畜産環境に関する苦情が最近多く寄せられています。
畜舎からのふん尿の早期排出など家畜排せつ物の適正管理や施設内外の清掃など、家畜の飼養に伴う悪臭、害虫の発生を防止・低減しましょう！！